

オリンピックと笑顔あふれる時間

オリンピックデー・フェスタ in しろいし

12月15日、ホワイトキューブで「オリンピックデー・フェスタ in しろいし」が開催されました。(公財)日本オリンピック委員会が主催するこのイベントは、東日本大震災復興支援JOC「がんばれ！ニッポン！」プロジェクトの一環として開催されており、今回で135回目、本市では一昨年に続き2回目の開催。ロンドン五輪ウエイトリフティング銅メダルの三宅宏実さんや北京五輪陸上競技銀メダルの高平慎士さんら8人のオリンピックが訪れ、会場に集まった市内の小学生約70人と五つのチームに分かれて、手つなぎ鬼や大玉転がし、綱引きなどで交流を楽しんでいました。

交流後は、アテネ五輪体操金メダルの中野大輔さんとロンドン五輪7位入賞の田中琴乃さん・深瀬菜月さんによる新体操教室が開かれ、子どもたち約40人がオリンピックから指導を受けていました。



1_大玉転がしで走る三宅宏実さんと参加者 2_表彰台上がった高平慎士さん、深瀬菜月さん、中野大輔さん、サッカー・宇津木瑠美さん、田中琴乃さんとチーム代表者。上位3チームには、オリンピックのようにメダルが授与されました 3_上級・初級・男子に分かれて行われた新体操教室。初級ではリボンを使い、音楽に合わせて楽しく演技しました 4_円陣を組んで団結したカヌー・矢澤一輝さん、フィギュアスケート・高橋成美さんと参加者

一足早いお正月を堪能！

白石市第二幼稚園でもちつき会

12月14日、白石市第二幼稚園でもちつき会を行いました。この行事は、臼と杵を用いた昔ながらの伝統行事を園児に体験してもらおうと開催し、今年で29回目。近隣に住む南町長寿会の方々を招き、園児と保護者約70人がふかしたもち米を試食したり、お正月の歌を歌ったり、力いっぱいおもちをついたり、もちつきを楽しんでいました。できあがったおもちは、お雑煮やあんこ餅、きなこ餅にして、保護者や長寿会の方々と食卓を囲み、一足早いお正月の気分を味わっていました。

園児は「おもちをつけて楽しかったです」「きなこもちがおいしかったです」と話してくれました。参加した長寿会の方は「長寿会は人が少なくなり継続が大変ですが、地元の子もたちとの関わりは大事な機会だと思います」「元気な子どもたちの姿を見て元気をもらいました」と話してくれました。



1_長寿会の方々とおもちを食べたりおしゃべりしたりしながら、楽しい時間を過ごしました 2・3_つきたて、できたてのおもちをよく伸びる！ おいしいおもちを堪能しました 4_「よいしょー！」のかけ声に合わせて、保護者や長寿会の方と一っしょいに杵を振りました

おじいちゃんおばあちゃんと一緒に

越河保育園干し柿作り体験

11月26日、越河保育園で「干し柿作り体験」を行いました。古くから越河地区で行われている伝統行事を、祖父母や地域の人たちと一緒に触れ合いながら体験するというもので、同園では初めての開催。地域から提供された約50個の干し柿を、14人の園児と地域の方が皮むきから干すまでの作業を体験しました。

参加した園児は「皮をむくのが難しかったけど楽しかったです。できあがったら家族と一緒に食べたいです」と笑顔で話してくれました。



▲先生と一緒に柿の皮をむく園児たち

水泳を通して交流と友情を深める

姉妹都市親善水泳大会2018

11月24日、「姉妹都市親善水泳大会2018」をスパッシュランドしろいしで開催しました。この大会には、登別市から15人、海老名市から14人、本市から18人の計47人の小学生が参加。「自由形50m」「平泳ぎ50m」などの個人4種目とリレーで熱戦を繰り広げました。

参加した子どもたちは水泳大会のほかにも、弥治郎こけし村でこけしの絵付け体験をしたり、こじゅうろうキッズランドで遊んだりしながら親睦を深めていました。



▲男子リレーの表彰式でメダルを持って仲良く記念撮影(左から白石市、海老名市、登別市チーム)

ベラルーシをもっと知ろう！

第4回しろいし国際カフェを開催

12月9日、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、本市がホストタウンとなっているベラルーシ共和国について、市民の皆さんに理解を深めてもらおうと「しろいし国際カフェ」(白石市国際交流協会主催)がふれあいプラザで開催されました。この日は約30人が参加し、同国の歴史や文化、「おもてなしロシア語」などを学びました。参加者は「環境も人柄も日本と似ていると聞いて、とても親近感が湧きました」と話してくれました。



▲ロシア語の講師に宮原ラーダさんを招いて、簡単なロシア語のあいさつや応援のフレーズを学びました